

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第16回会議 会議録（要旨）

1 日 時

令和4年8月17日（水）19：00～20：00

2 場 所

函館市医師会病院5階講堂（ハイブリッド開催）

3 出欠状況

メンバー：会場参加 寺田部会長，川口メンバー，京谷メンバー，齋藤メンバー
ウェブ参加 水越副部会長，川村メンバー，船山メンバー，阿部メンバー，
山本メンバー，益井メンバー，渡部メンバー，白川メンバー
欠席者 渡邊メンバー

部会運営担当：（函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，眞嶋，近藤，甲谷，山田
事務局：（函館市保健福祉部地域包括ケア推進課 医療・介護連携担当）根崎

4 議 事

○報告事項

- 1，令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料1，3）
- 2，センターホームページ「コラム」の掲載について
- 3，研修情報の一元化と提供について（資料4）

○協議事項

- 1，第7回 函館市医療・介護連携多職種研修会について
（資料2，5，6，7，8）

5 会議の内容

根崎医療・介護連携担当

皆様，こんばんは，函館市役所地域包括ケア推進課の根崎と申します。人事異動により，今年の4月から医療・介護連携担当させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第16回会議を開催いたします。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第15回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていた

いただきました。事務局の方には、特に修正のご意見がございませんでしたので、原案どおりで、第15回会議録を確定し、市のホームページ上で公開させていただきました。

本日は、ウェブと会場のハイブリッド開催となっております。ウェブ参加の皆様は、カメラをONのままにいただき、ミュートは発言時に解除してください。発言時には、画面上でわかりづらい事があるため、氏名を名乗ってください。事務局での操作等で不慣れな点があると思いますが、よろしく願いいたします。

本日は、北海道看護協会 道南南支部 渡邊様が所用により欠席となっております。また、ウェブ参加が8名、会場参加が4名となっております。

それでは、本日の資料を確認させていただきます。事前に会議次第1枚、資料1から8まで、全部で裏表の印刷含め合計10枚を送付しておりますが、本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。また、机上に座席表と出席者名簿を配布させていただいております。

本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは寺田部会長、お願いします。

寺田部会長

皆様、こんばんは。ハイブリッド開催ということで、様々なトラブル等あると思いますが、よろしく願いいたします。

それでは、次第に従い議事を進めてまいりたいと思います。報告事項1「令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告」に関して、眞嶋幹事から説明をお願いします。

眞嶋幹事

皆様、こんばんは。幹事の眞嶋です。報告事項の1「令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告」につきまして、ご報告いたします。資料1をご覧ください。資料3の「令和4年度多職種連携研修実績および予定表」と合わせてご確認いただければと思います。

(1) 相互理解の促進

①医療関係者向け研修会（動画公開）についてです。令和4年7月11日から7月31日まで公開した動画のテーマは、『30分でわかる福祉用具の「あれこれ!」』。講師は、福祉用具貸与事業所ひより屋の福祉用具専門相談員 角田真一様です。動画の閲覧人数は407名で、資料にはございませんが、アンケートの回答件数は287件となっております。動画公開後のアンケートでは、「福祉用具の勉強会は珍しかったのでよかったです」、「同業者として知識が深まりました。利用者様が安心して生活できる環境整備を心がけて、今後も支援させていただきます」、「入院中から歩行器等のデモ試用ができるとは知らなかった。入院中から使ってみる事で、利用者様も在宅で使うイメージが持てて安心だと思いました」等のご意見がありました。同業者の方からいただいた、「ますます、福祉用具を知ってもらえるように頑張りたい」という感想からも、今後の仕事への活力となったのではないかと考えております。また、医療関係者からは、「退院前に情報共有ができる事でスムーズに在宅生活へ繋がられるように関わりたい」といった反応もありました。「入院中からデモ試用ができることを初めて知った」という感想もあり、改めて他職種の知識を備えることで、より一層、医療と介護の連携が図られるのではないかと考えております。

②介護関係者向け研修会（動画公開）についてですが、テーマは「食べるということ〜お

いしく食べ続けるために〜」。講師は、函館稜北病院 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション稜北の言語聴覚科主任 宍戸加奈美様です。既に撮影は終了し、現在動画作成中で、10月に公開予定です。

③オープンカンファレンスについてですが、第7回函館市医療・介護連携多職種研修会を9月10日土曜日の13:30～16:30にオープンカンファレンス形式で実施予定です。

④研修会等コーディネートについてですが、令和4年8月9日に、各関係者団体窓口一覧を更新し、当センターのホームページに掲載しております。今後も1年毎に更新し、各団体間での連携時に活用していただければと思います。

⑤その他についてですが、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センターが作成した研修動画を令和4年4月18日から5月15日までの間に公開しました。テーマは『精神科を知ろう！～早期相談・早期受診のすすめ～』で、講師はなるかわ病院の相談室主任 医療ソーシャルワーカーの山村哲様です。閲覧人数は524名で、アンケートの回答件数は240件となっています。

(2) 連携強化

①連携強化についてですが、第7回函館市医療・介護連携多職種研修会を、9月10日土曜日の13:30～16:30に開催予定です。後ほど協議事項で、皆様にお話しさせていただきます。

②入退院支援についてですが、(ア)退院支援分科会が主催の『入退院支援連携強化研修会(ガイド編)』を、当初30名程度の集合開催とし、グループワークの実施に向けてコア会議を重ねておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、グループワーク無しのウェブでの開催を検討しているところです。今後もコアメンバーの皆様と共に開催に向けて協議してまいります。(イ)情報共有ツール作業部会主催の『入退院支援連携強化研修会(サマリー編)』についてですが、現在のところID-Linkを活用した、医療・介護連携の試験運用を実施しているところであり、研修会の開催につきましては、現在未定となっております。(ウ)その他ですが、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター作成の研修動画を令和4年5月23日から6月19日までの期間公開しました。「おもいやりのあふれる地域のために」というテーマで、北美原クリニックの岡田晋吾先生に講演していただいたほか、情報共有ツール作業部会のメンバーおよび函館市医療・介護連携支援センター職員による、「はこだて医療・介護連携サマリー」の説明も行いました。動画の閲覧人数は438名で、アンケートの回答件数は133件となっています。

③急変時対応分科会実務者会議主催の研修についてですが、10月以降に開催を予定しております。仮のタイトルですが、「急変の一つ手前のできること」と題しまして、現在、座長やシンポジストの調整を行っております。

(3) 多職種連携の専門性の向上

出張講座の実施に関してですが、7月19日に函館市地域包括支援センターあさひから、ケアマネジャー13名を対象とした「高齢者の負担軽減制度について」の講義依頼があり、ほくと・ななえ医療介護連携支援センターの職員が出張講座を実施しました。また、今年の4月から相互交通介護サービスが開始になったことに伴い、プロドライバーの資格を持ちながら介護職員初任者研修の資格も取得した方に対して、介護技術の実技指導を行うため、7月26日に相互交通株式会社からの依頼で出張講座を実施しました。

(4) 人材育成

センター主催研修会への見学参加についてですが、医療・介護系の各学校に向けて医療・介護関係者向けの動画研修と第7回大規模研修会の案内を配布しており、現在までの研修動画の閲覧数は、全体の2割程度となっています。

報告事項1「令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告」のご報告は以上でございます。

寺田部会長

それでは、報告事項1に関して、皆様からご発言をいただきたいと思います。ご質問、ご意見等はございませんか。

京谷メンバー

包括支援センターゆのかわの京谷です。お疲れ様です。質問なのですが、閲覧人数や回数については、どのように評価をしているのでしょうか。多い少ない等をどのように判断しているのかを教えてくださいたいです。動画での研修については、コロナ禍において、コンパクトな時間設定の中で視聴でき、公開期間も一定程度設けられているため、とても良いと思っております。隙間時間で観られるため、私の職場でも活用しやすいとの意見も出ており、ぜひ続けていただきたいです。

眞嶋幹事

ご質問ありがとうございます。動画研修の評価についてですが、研修後に実施するアンケートの結果を分析し、評価しております。まず、福祉用具をテーマとして行った動画研修ですが、視聴者の所属機関の中で最も多かったのが介護機関で、全体の60%でした。医療関係者向けに作った動画でしたので、できれば医療機関の方々に多く観ていただけたらと思いましたが、結果として医療機関の割合は、全体の33.5%でした。

また、精神科をテーマとして行った動画研修ですが、視聴者の所属機関別では、医療機関が全体の23.6%、介護機関が62.7%ということで、やはり介護関係者の方が多く観ているという結果でした。サマリーの説明動画では、医療機関が35.3%、介護機関が59.4%でしたので、他の2つの動画に比べると、こちらの動画は、医療機関の視聴割合が若干伸びた印象です。医療と介護の相互理解のため、医療関係者・介護関係者という枠にとらわれずに視聴できる動画として配信している研修動画ですが、アンケートを分析すると、今のところ介護関係者の方が多く観ているという結果です。今後は、医療関係者の方々に興味を持ってもらえるテーマや内容を検討することが課題だと思っています。

京谷メンバー

ありがとうございます。

寺田部会長

他にご質問やご意見等はございませんか。よろしいでしょうか。(なし)

報告事項1に関しては以上で終了し、次の議事に進めさせていただきます。それでは、報告事項2「センターホームページ『コラム』の掲載について」について、幹事から説明願います。

眞嶋幹事

資料1 報告事項2「センターホームページ『コラム』の掲載について」につきまして、ご報告いたします。

「認定看護師の役割と活動」に関するコラムですが、2か月毎にセンターのホームページ上に掲載しており、5月は、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 函館五稜郭病院 山田拓也様、7月は、訪問看護認定看護師 訪問看護ステーションオハナ 高畑智子様のコラムをそれぞれ掲載しました。コラムの閲覧件数ですが、5月分は78件でした。7月分につきましては、2ヶ月後の集計結果を次回の部会でご報告いたします。また、認定看護師のコラムは7月で終了し、今後は別の専門職によるコラムを予定しております。

報告事項2「センターホームページ『コラム』の掲載について」のご報告は以上でございます。

寺田部会長

それでは、報告事項2に関して、皆様からご発言をいただきたいと思えます。ご質問、ご意見等はありませんか。無いようなので、報告事項2に関しては以上で終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、報告事項3「研修情報一元化と提供について」に関して、幹事から説明願います。

眞嶋幹事

資料1 報告事項3「研修情報一元化と提供について」ご説明いたします。資料4をご覧ください。

令和4年4月から7月までの間に掲載した研修情報は、合計4件でした。その他、函館市医療・介護連携支援センター主催研修会を3件、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催研修会を2件、函館市医療・介護連携支援センターとほくと・ななえ医療・介護連携支援センターの共催研修会を1件掲載しております。

研修情報提供に関しましては、各関係団体窓口一覧更新完了の案内とともに、情報提供の協力依頼を行いました。引き続き、掲載数の拡大に努めていこうと考えております。メンバーの皆様にも、今後とも研修情報の一元化にご協力いただきますよう、よろしく申し上げます。

報告事項3「研修情報一元化と提供について」のご報告は以上でございます。

寺田部会長

それでは、報告事項3に関して、皆様からご発言をいただきたいと思えます。ご質問、ご意見等はありませんか。無いようですので、「報告事項3」に関しては以上にて終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、協議事項1) 第7回函館市医療・介護連携多職種研修会につきまして、幹事から説明願います。

眞嶋幹事

資料2 協議事項1)「第7回 函館市医療・介護連携多職種研修会について」をご説明いたします。資料5から8をご覧ください。こちらが第7回 函館市医療・介護連携多職種研修会の素案です。

テーマは、前回の部会で提案させていただいた『8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を考える～知ろう！気づこう！繋がろう！』で、8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を理解し、医療と介護と福祉の連携と協働を強化することを目的としております。また、8050問題の実際を知ること、8050問題の事例から、多職種連携の必要性を理解すること、明日から自職種で何ができるかを考える事ができること、この3つを目標として設定しました。

座長は、当部会のメンバーとしてもご協力いただいております、稜北病院の川口篤也先生、シンポジストは、今回のテーマに沿って事例の取りまとめのご協力をいただきました、函館市地域包括支援センターゆのかの係長・保健師 京谷佳子様、居宅介護支援事業所すず音の管理者・主任介護支援専門員 手塚仁美様、社会福祉法人函館一条相談支援事業所一条の相談支援専門員 長谷川隆明様、デイサービスセンターももハウスの介護主任 山本弥様をお願いしております。

研修の構成についてですが、座長の川口先生とも相談させていただき、オープンカンファレンス形式で開催し、座長と登壇者でディスカッションをしながら事例の理解を深め、参加者の皆様から意見を伺い、質疑応答をするという構成を考えております。

時間配分としましては、事例の共有のディスカッションが70分、個人ワークが10～15分、発表、質疑応答、総評をあわせて50分としておりますが、今度の座長および登壇者の皆様との協議により、変更になる可能性がございます事を申し添えさせていただきます。

開会挨拶は本間会長、司会は阿部様、サブ司会は白川様をお願いしておりますほか、ウェブの担当として、外部のエイケイビデオとステージカンパニーに依頼しております。

続きまして、資料5をご参照ください。開催方法は現在のところ、会場とウェブのハイブリッド形式での開催を予定しております。会場は国際ホテル天平の間で、スクール形式で実施し、通常の定員が500名のところを半数以下の50～130名とする予定です。また、ウェブのツールは、Zoomを使用し、ウェブ参加の人数は100名と考えております。8月17日現在の参加申し込み状況ですが、88名の申し込み者のうち、会場参加を希望されている方は18名です。その他、参加予定の関係者は20名程度となっております。このままハイブリッドでの開催とするか、完全ウェブ開催に切り替えるかについては、これまでも医師会会長や医師会病院と協議を続けてきておりますが、最終的な判断は22日の週に確定する予定となっております。

(2) 個人ワークの内容については、資料5の裏面をご覧ください。①ディスカッションを聞いた率直な感想、②明日から自職種(自分たち)で何ができるのか?(気づきや繋ぎ方など)、③質問という3つのテーマに沿って個人ワークを行ってもらいます。会場参加者については、これらのテーマごとに意見等を紙に書いてもらい、それを回収。ウェブ参加

者については、チャット機能を使って事務局に提出してもらい、提出された個人ワークの内容を後半のディスカッションに生かし、活発なやり取りに繋げていきたいと考えております。

(3) 参集方法は、例年通りの方法で行っております。

(4) 集合開催の中止判断については、資料8をご参照ください。資料の下の方にある「研修会中止の判断基準」をもとに、今後も関係者と協議を続け、判断していきたいと考えております。

(5) 集合開催の中止時の代替案は、完全ウェブ開催とします。完全ウェブ開催も中止となった場合の代替案については、研修会を延期とし、時期をみて改めてウェブでの開催を企画したいと考えております。

最後になりましたが、例年お願いしているメンバーの皆様の役割につきましては、所属機関の状況により、会場参加が可能かどうかという事情もあるかと思っておりますので、後日改めて、会場参加の可否について確認させていただいた後、お願いしてまいりたいと考えております。

協議事項1)「令和4年度 函館市医療・介護連携多職種研修会について」の説明は以上です。ただいまご説明いたしました第7回 函館市医療・介護連携多職種研修会について、特に個人ワークのテーマや方法等につきまして、皆様にご協議いただければと思います。

寺田部会長

ありがとうございます。それでは、ご説明いただきました協議事項5つにつきまして、一つずつ協議していければと考えています。まず、開催方法についてですが、事例を共有し、個人ワークを行い、発表と質疑、総評という流れになっており、グループワークが無い形になっています。

この開催方法につきまして、何かご意見等ございませんでしょうか。水越先生、いかがでしょうか。

水越副部会長

副部会長の水越です。皆様お疲れ様です。会場参加を希望している人数が、現時点で18名ですよね。ハイブリッド開催の場合、当日の会場参加者が18人でも、現在予定している国際ホテルの天平の間で研修会を行うのですか。

佐藤メンバー

この後の申し込み人数によるところもありますが、仮に18名であれば、もう一段階部屋を狭くしますし、会場参加の人数が増えるようでしたら、500名入る会場で開催したほうが良いのかと思っています。広い会場に点々と座ってもらうのではなく、ある程度登壇者に近いところに座っていただくイメージになるかと思っています。

水越副部会長

広い分には問題ないと思いますので、会場は切り替えることなく天平の間になるということで、分かりました。

寺田部会長

ありがとうございます。他にございませんか。流れとしてはよろしいでしょうか。

次に、個人ワークの内容ですね。資料5にある個人ワークのテーマについては、皆様どうでしょうか。益井先生いかがでしょうか。

益井メンバー

そうですね。ハイブリッド開催の中こういう大きなテーマで個人ワークをして、ディスカッションするというのは、なかなか難しいというか、イメージが湧きづらいのですが、今回の3つの個人ワークのテーマは、非常にシンプルで良いのではないかと思います。

寺田部会長

ありがとうございます。他にございますか。

齋藤メンバー

道南老施協の齋藤です。お疲れ様です。益井先生がおっしゃる通り、ハイブリッド開催で大人数が個人ワークをするというのがピンとこないのですが、以前50人くらいの少ない人数の前で講師をすることがあり、個人ワークを実施したことはあります。そこで何の職種なのか分からない人に声をかける時、例えば、今のように道南老施協の齋藤ですと名乗ってから話し始めると分かるのですが、きちんと職種等を言ってくれないと、話し始めても何の職種の誰なのかがわからないでしょうし、ウェブであれば介護者齋藤というように名前を付けてもらえると分かると思いますが、結構細かいところで、複雑に進んでいくのでしょうか。

逆に皆さんだったら、このような状況での個人ワークの経験はあるのですか。

寺田部会長

川口先生、どうですか。

川口メンバー

稜北病院の川口です。ウェブのブレイクアウトセッションで、グループワークを実施したことはあるのですが、確かにハイブリッドで個人ワークというのはあまり経験がないです。なかなか大変かとは思いますが、現在考えているのは、会場参加者には挙手で発言してもらい、ウェブ参加者にはチャットに意見を書いてもらうという方法です。自分のコメントが広げられると思うと書いてもらえなくなるかもしれませんが、上手くいけば、チャットは結構書いてくれる場合が多いですよ。それらを上手く拾って、「こういう意見があります、皆さんはどうですか」というようにディスカッションに活かして、活発なやり取りに繋げていければと考えています。また、今齋藤さんがおっしゃったように、所属と名前はなるべく言ってもらうように進行していきたいと思っています。

齋藤メンバー

チャットは、匿名にできるのでしょうか。匿名だとたくさん意見を書いてくれるけれど、匿名でなければあまり書いてもらえないということも考えられますか。匿名であれば

ウェブの参加者は入力しやすいけれど、見ている人は誰が書いたコメントなのかが分からないということもありますよね。

佐藤幹事

匿名にするとなると、Zoomに入室する段階で名前を入力しないという形にしなければ、匿名にはできないはずです。まだZoomに慣れていないのですが、匿名でチャットに入力するというのはできなかったと思います。

齋藤メンバー

うちの学習会でチャットだけで区切ってやったことがありました。匿名の良し悪しもあるかと思います。

川口メンバー

今までの研修会では、何かのきっかけで誰かがチャットに書き込むと、他にも結構書いてくれたという良いイメージがあります。ただし、チャットには書き込んだけれど、指名をされて発表はしたくないという人もいるかもしれませんよね。その場合はこちらが配慮して、「それはちょっと勘弁してほしい」と言われたら、本人ではなくこちらが代弁するなど、臨機応変に対応しようと思っています。

寺田部会長

京谷さん、お願いします。

京谷メンバー

包括京谷です。チャットも主催者だけに公開するものと、参加者全員に公開するものに確か分けられると思います。一気に100人くらいの人に見られると思うと抵抗があるのかもしれないので、主催者以外には表示されないで、ご安心くださいというようにアナウンスすれば、書きやすいかもしれないですね。

また、研修会によってはZoom慣れしていない人向けに事前に詳しくオリエンテーションをするものもありますよね。例えば、事前のテストの時にチャットの入力方法を説明して、実際に入力する練習をしてもらうような。研修の参加者がZoomに慣れていないことを想定して、事前にチャット機能等の使い方についてアナウンスするような機会があれば、より親切かなと思いました。

寺田部会長

ありがとうございます。

佐藤幹事

事務局だけがチャットの情報を見られるようにするというZoomの設定ができるのかも含めて、今後検討していきたいと思います。どこまで詳細のものを作れるのかというのがありますが、できるだけ分かりやすく伝えられる資料を作っていきたいです。現時点で

は、もしかしたらパソコン操作に慣れている人向けになってしまうのかもしれませんが、ウェブ参加の方には、縦長に入力できる形のWordのファイルを事前に送ることも考えていたところでした。そのファイルに意見を打ち込んで、それをコピーしてチャットに貼り付ける方法であれば、慣れないチャット上で入力するよりもやりやすくなるのかなと思っています。

色々と考えているのですが、いずれにしても、パソコン慣れしていないと、その操作もできないのかなと思います。限られた条件の中で研修を行うことになるので、できるだけ参加しやすいように、少しでもチャット機能を使って参加してもらえようようにしたいと考えています。

寺田部会長

益井先生、お願いします。

益井メンバー

益井です。個人ワークの件で、確認したいことがあります。イメージしながらお話を聞いていたのですが、ディスカッションに対する素直な感想や、自職種で何ができるのかを考えるとということに関して、Zoomの画面を見ながら考えているわけですね。それを座長が指名して、発表してもらい、もしくは、そのチャットに入力されたものを発表する形になるのだと思うのですが、そのように捉えてよろしいのでしょうか。

また、各職能団体から何人か参加していると思うのですが、自職種から何ができるのかということについて、座長からその方たちに意見を聞くということもあるのでしょうか。例えば、前もって聞きますからねという約束をするということもなく、突然各職能団体の方に指名するという可能性もあるのでしょうか。その辺を、川口先生にお聞きしたいと思います。

川口メンバー

自発的に色々な人がチャットに書き込んでくれるのがベストなのですが、そうではない場合には、各職種に上手く振りたいと考えていて、その時にはもしかしたら、個人的に知っている人などに最初に話を振ったり、「この職種の方から今、このような意見をいただいたのですが、何かありますか」というように上手く話を振ればと思っています。

益井メンバー

了解しました。もう一つ質問なのですが、この作業部会に入っている私たちの中で、特に現場での役割がないメンバーが、通常の参加者という形で、席に座っていても良いのでしょうか。その辺はどうですか。

佐藤幹事

このままハイブリッドで開催できるのか、ウェブへの切り替えとなるのかということがまだ、はっきりしていないので、大変心配されるところかなと思うのですが、もし完全ウ

ウェブ開催となりましたら、昨年度も皆さんに、活発なご意見をお願いしたいと事前にお伝えしていたのですが、今回も同様をお願いしたいと思います。

このままハイブリッド開催となった際には、会場で名簿の回収をお願いしたり、個人ワークの時にファシリテーターとして、手が止まっている方がいれば声をかけていただいたりというようなお手伝いをお願いできればなと思っていますところでした。ハイブリッドになるかウェブになるかが定まった時点で、皆様に役割のお願いをするという形になると思います。

益井メンバー

わかりました。それでは、現場にいるとすると、状況を見ながら私たちは、若干ファシリテーター的な感じでお手伝いして、進行が上手くいくようにするという役目も担うということでもよろしいでしょうか。

佐藤幹事

すみません。完全ウェブ開催となりましたら、一参加者として、活発なご意見等を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。

益井メンバー

ありがとうございます。わかりました。

寺田部会長

ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。

京谷メンバー

包括京谷です。初歩的なことで申し訳ないのですが、今回事前に参加者の人数を集約されるとのことで、ウェブ参加者と会場参加者を何人ずつかに分けて、グループワークをするという形はできないのでしょうか。グループ分けしたウェブ参加者の中に、感染対策を講じながら会場参加者を振り分けて、グループにパソコンを1台ずつ置いたらグループワークも可能になると思います。そうすれば、個人ワークの時間とグループワークの時間が設けられますし、グループの代表の人に意見を発表してもらうこともできるのかなと考えました。

佐藤幹事

できるだけグループワークは、実施したいという思いでいましたが、コロナが感染拡大している状況の中で、会場参加者よりもウェブ参加者のほうが増えるだろうと予想した時に、何とかハイブリッドという形で開催できればなと期待して、会場参加者の感染リスクを避けるためにグループワークを無しにして、企画を練り直したところです。

また、ウェブ上でのグループワークが実施でき、ファシリテーターが全てのグループに入れるよう設定できれば、参加者も話しやすく、ディスカッションも活発になるとは考えたのですが、ウェブでのグループワークについては、当日のウェブ参加者の人数が予測で

きないことや、参加人数によっては作れるグループ数やグループの人数に制限がかかるという状況もあるため、今回はグループワークの実施については断念したところです。

寺田部会長

皆さん、いかがでしょうか。阿部さん、お願いします。

阿部メンバー

お世話になっております。ソーシャルワーカー協会の道学会が、7月に完全オンラインで開催されたのですが、Zoomのウェビナーというものを使ってやりました。その時は、主催者側にしか質問が見えないQ&Aという形になっていて、参加者には見えない状態で座長が寄せられた質問を見て、誰に話を振るのかということを決めていました。

もしウェビナーを使うのであれば、それができるのではないかと思います。今回は普通のZoomを使うのでしょうか。

佐藤幹事

ありがとうございます。今のところ、ウェビナーではなくて、Zoomミーティングを予定しております。Zoomミーティングも本来であれば、定員が100名となっているところなのですが、ライセンスを一つ追加することで、100名を超えたZoomも可能になることが分かりました。

残念ながらウェビナーではなく、Zoomミーティングという形になるのですが、同じように事務局にしか見られないチャット機能というのが、できるのかどうかを確認したいと思います。

阿部メンバー

業者さんも入るということでしたので、その辺もご検討いただければと思います。以上です。

佐藤幹事

ありがとうございます。

寺田部会長

他にございませんか。よろしいですか。（異議なし）

次に（3）の参集方法についてです。こちらにつきましては、例年通りに進めていくということですが、皆さんのほうで何か不都合な点はないですか。ご意見はございませんでしょうか。

京谷メンバー

包括京谷です。各包括から会場参加とウェブ参加のどちらが主催者にとって都合がいいのかという問い合わせがあったので、参考に教えていただきたいです。多くの包括職員がウェブ参加で申し込みをしてしまうと、包括職員だけでウェブの参加枠を埋めてしまうの

ではないかという懸念があるようです。一回線を使って複数人で視聴した方が良いのでしょうか。

眞嶋幹事

今のところ、地域包括支援センターさんから沢山のお申込みをいただき、ありがたく思っております。会場を希望されている方は、包括さんの中にはいらっしゃらず、皆様ウェブでの参加を希望されています。色々のご配慮いただき、どちらが良いのかということを検討されたと思いますが、本当は会場が良いのに、ウェブにされたのではないかという心配も事務局としてはあります。また、会場参加を希望される方には、ぜひ会場で参加していただきたいという思いもあります。

京谷メンバー

まだ包括で申し込みをしていない者がいるので、どのようにしたら良いかという相談でした。

眞嶋幹事

できるだけ希望に沿って受付したいと思っていますので、会場でも、ウェブでもどちらでも希望するほうで申し込みしてもらえればと思います。

佐藤幹事

今、眞嶋からもありましたが、色々のご配慮をいただきありがとうございます。申し込み人数に応じて、完全ウェブ開催が良いのか、ハイブリッド開催が良いのかというところを考えて参りますので、皆さんの希望する参加方法で申し込みください。

京谷メンバー

わかりました。ありがとうございます。

川口メンバー

一つ心配なのが、ウェブで100名ということですが、ウェブの希望者が多くなった時に、希望から外れる人が出るということはないのでしょうか。

佐藤幹事

今のところ、目安としては100名としていますが、設定次第で確か500名まで入室可能となっております。もう一度、エイケイビデオさんと相談してみますが、その結果、万が一200名までしか枠が無いということでしたら、それを超える人数の参加申し込みがあった際には、申し訳ありませんが、お断りする場合もあるかと思っております。

寺田部会長

他に何かございますでしょうか。（なし）

それでは、（3）の参集方法は、以上といたします。

次に、（４）集合開催の中止判断につきまして、資料８を参考にいただきまして、皆様からご意見やご質問はありますか。（なし）

続いて、（５）集合開催の中止時の代替についてですが、現在はハイブリッドで予定しそれが難しければウェブで、そして、ウェブも中止となった際には延期して、改めて時期をみてウェブでの開催という想定でおりますが、皆様から何かご意見はありますか。

京谷メンバー

包括京谷です。現段階の、医療機関からの申し込み状況を教えていただきたいです。コロナの感染者数は、現在３００人、４００人と増えておりますが、医療側の負担などを考えると、かなり大変なのかなと思います。

普段であれば参加できるけれど、この時期、特に９月はウェブだとしても参加は難しいという医療機関もあるのかなと思うのですが、申し込み状況はどうでしょうか。

眞嶋幹事

ありがとうございます。今、まだ取りまとめの途中ではあるのですが、医師や看護師は５名程です。薬剤師や鍼灸マッサージ師を加えると、結構な数になると思います。

時期も時期ですので、慎重に考えて申し込みされているのだと思いますが、できれば医療関係者に、もう少し参加していただければなというところですね。何か良い方法がないかなと私自身も頭を悩ませているところです。

京谷メンバー

包括京谷です。どこの職場でも、９月１０日にスタッフを研修に行かせるのは、難しいのかなと思っていて、介護側はウェブであれば参加しやすいと思うのですが、医療機関が一番辛い時期に、この研修を行うというのはどうなのかという気持ちもあります。

ただ、規模の大きな研修なので、そうそう延期するわけにもいかないのだろうなと思いながら過ごしていました。

寺田部会長

ありがとうございます。水越先生お願いします。

水越副部会長

今、現状の話が出たので。私がいる薬局は、発熱外来を行っているところなのですが、毎日患者数がだいぶ多くなっておりまして、看護師さんなどもご家族と濃厚接触があるなど、かなり厳しい状況にあるのは事実です。ただ、研修に出られるか出られないかは個人の問題なので、皆さんしっかり判断されて、可能であれば出ていただけたらと思います。

延期するにしても、結構厳しいのかもしれないので。最終的判断は、２２日でしたか。医師会の先生方と話し合っただけで、それに従うという形で、何とかやれたら良いのかなと私個人は思っています。以上です。

寺田部会長

ありがとうございます。他に何かご意見等ございますか。（なし）

皆様、大なり小なり、様々な不安や希望を持ちながら、どうなるのかなと感じていると思います。疑問等がありましたら、その都度事務局へ伝えていただき、当日開催できれば良いのかなと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

協議事項含めまして、何かご意見等ございますか。よろしいですか。

水越副部長

一点だけいいですか。先程、京谷さんがおっしゃっていたZ o o mの使い方などの事前案内は可能ですか。ウェブで参加される方は、一回もウェブを使ったことがないという人はほとんどいないと思うのですが、使い方を事前に確認できれば、当日かなりスムーズに行くのではないかと思います。私も同感でした。もし可能であれば、やっていただければと思います。

眞嶋幹事

水越さん、ありがとうございます。私もZ o o m等、得意なほうではないものですが、どの辺の内容から作ったらスムーズなのかと頭を悩ませているのですが、その点に置きましてもアドバイスをいただけましたらありがたいです。よろしくお願いします。

水越副部長

チャット機能の説明から作ったら良いのではないかと思います。説明の中に、チャット機能を使われる際には、最初から主催者側だけが見られるようになっていきますなどと記載すると良いのかもしれませんが。これは、一つの意見として。

眞嶋幹事

ありがとうございます。

寺田部長

他に何かございますか。よろしいでしょうか。沢山のご発言をありがとうございました。9月10日まで何かございましたら、事務局に提案していただきまして、無事成功させられればと思います。よろしくお願いします。それでは、全ての議事を終了させていただきます。

では、次回の部会につきまして、幹事からご説明をお願いします。

眞嶋幹事

次回の部会は、改めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承願います。

寺田部長

他になければ、全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

根崎医療・介護連携担当

寺田部会長， どうもありがとうございます。

それでは， 以上をもちまして， 函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部の第16回会議を終了いたします。

皆様お疲れさまでした。